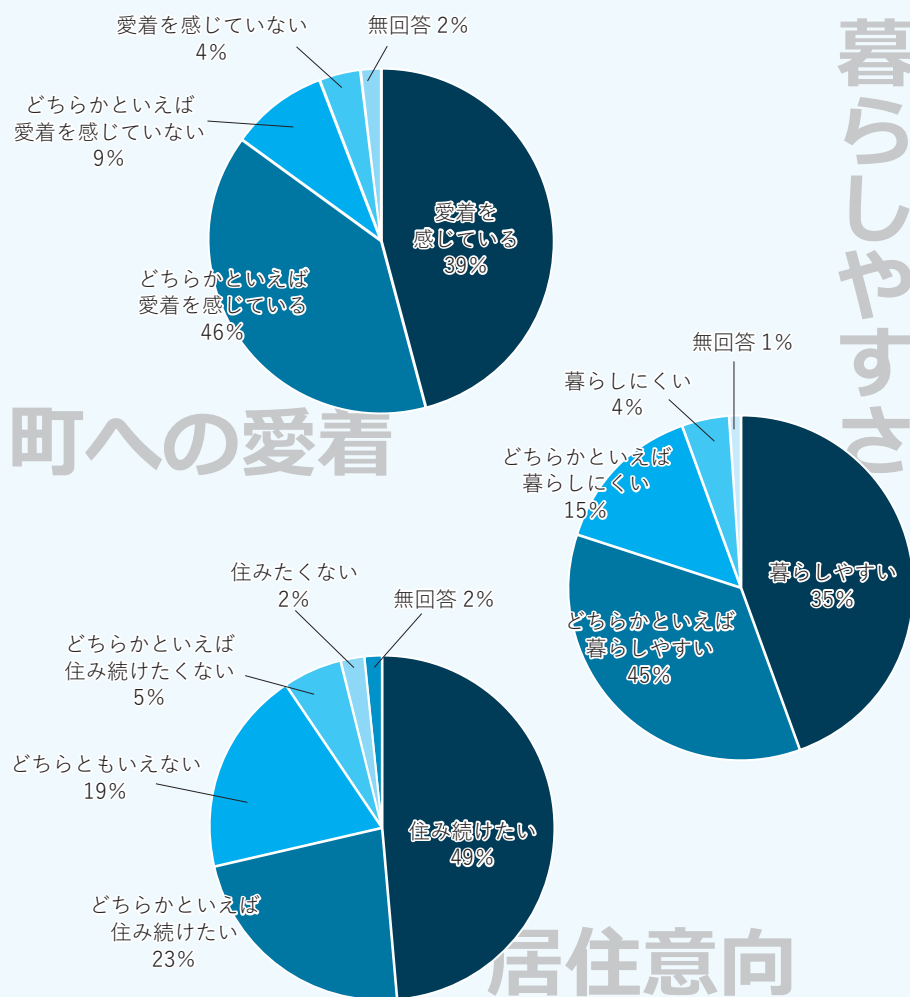


Q 広川町は住みやすいですか？



まちづくりアンケート

昨年9～10月、18歳以上の町内在住者2500人（無作為抽出）を対象に、行政施策への意見やニーズなどを調査する「まちづくりアンケート」を行いました。調査結果の一部を公表します。

広川町に対して、85%の人が「愛着を感じている」「どちらかといえば愛着を感じている」、80%の人が「暮らしやすい」「どちらかといえば暮らしやすい」、72%の人が「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」と答えています。

上記のグラフ以外の調査結果では、「住み続けたい」と考えている人は70歳以上で66%、20歳代以下で25%と、年齢が低いほど住み続けたい人が少なくなっていることが分かりました。「住みたくない」「どちらかといえば住み続けたくない」と答えた人の理由は、「道路事情や交通の便が悪い」（48%）、「日常の買い物不便」（47%）、「地域の行事や近所づきあいが面倒」（35%）の3つが多くなっています。

この「まちづくりアンケート」は、新たな「広川町総合計画」を策定するためのもの。調査結果は策定時の基礎資料として活用されます。回収率46・9%と、多くの人にご協力いただきました。

施策分野ごとの詳細アンケートや前回の調査結果との比較など、そのほかすべての調査結果は、広川町のホームページや政策調整課窓口で公表しています。

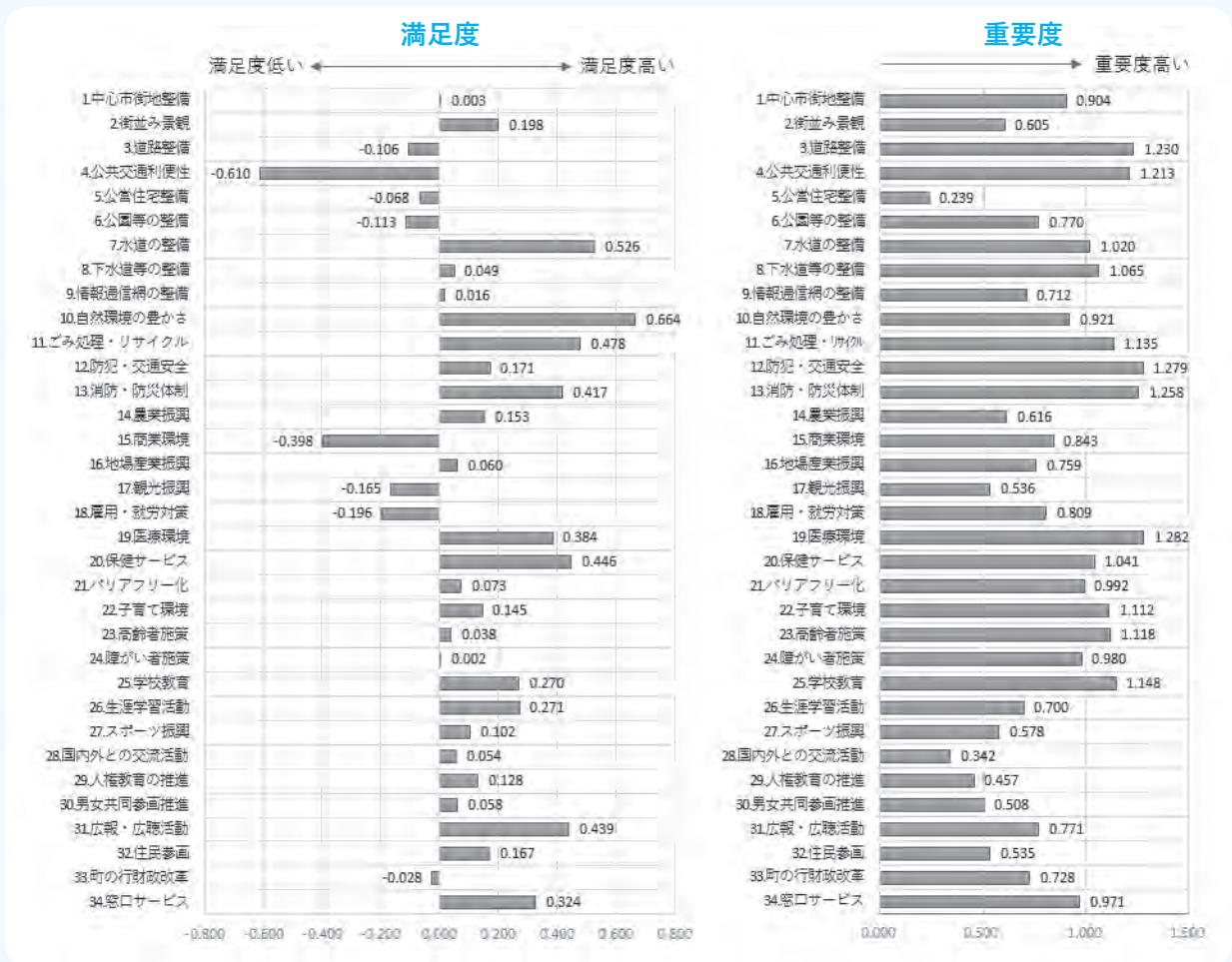
まちづくりの指針

「総合計画」

総合計画とは、まちづくりを進めるための基本指針をまとめた、町の最上位の計画。まちづくりの基本理念と方向性を示す「基本構想」と、分野ごとの施策の方向性や取り組み内容を示す「基本計画」

町の行政施策で満足しているもの、重要だと思うものは？

第4次総合計画で取り組んできた施策を分野ごとに調査しました



※満足度は満足+2、やや満足+1、どちらともいえない±0、やや不満-1、不満-2の5段階、重要度は重要+2、やや重要+1、どちらともいえない±0、あまり重要ではない-1、重要ではない-2の5段階で集計したものをグラフ化しています。

満足度は「自然環境の豊かさ」「水道の整備状況」「ごみ処理・リサイクルの状況」が高く、「公共交通機関の利便性」「商業環境」「雇用就労対策」が低くなりました。

「子育て環境」(+12.9%)、「下水道等整備」(+11.7%)、「情報通信網整備」(+10.4%)、「小中学校などの学校教育」(+9.60%)、「医療環境」(+8.10%)などは、平成21年

の第4次総合計画策定時より「満足」「やや満足」の比率が増え、「公園・緑地・水辺の整備」(-9.90%)は「満足」の比率が下がりました。

重要度は「医療環境」「防犯・交通安全体制」「消防・防災体制」「道路の整備状況」「公共交通機関の利便性」が高くなりました。

新たな指針策定へ

「第4次総合計画」の計画期間は平成23年度～令和2年度。来年度終了を迎えることから、令和3年度～令和5年度を計画期間とした「広川町第4次総合計画（改訂版）」を作成することとなりました。今回の調査で「今後力を入れるべき施策」として上位に挙げたのは、高齢者施策や子育て・医療環境の整備、公共交通機関の利便性向上など。新たな総合計画はこれらの住民ニーズを反映させ、12月に策定する予定です。

の2つで構成されます。現在広川町の行政施策のもととなっているのは「第4次総合計画」。将来像である「いまこそ集い 未来へつなごう人と笑顔とふれあいのまち 広川」安心と喜びを実感できるまちづくり」を実現するため、毎年度具体的な事業計画書を作り、各施策を進めています。

問 政策調整課政策調整係
0943・32・0106